



あさひ

7

～平和の象徴として～ 実物大模型で『紫電改』を再現～

第二次世界大戦の末期、鶴野の地に開隊された姫路海軍航空隊。同隊のメンバーで特別攻撃隊が編成され、63名もの若者が戦地に飛び立ち、亡くなりました。時を同じく、当時最も優秀な戦闘機と呼ばれた『紫電改』466機、『紫電改』46機が、鶴野飛行場で組み立てられていました。いまを生きる私たちが、当時を実感し、いまの戦争のない平和の尊さを学び、伝えていくために、実物大模型を役立てていきます。
(写真：茨城県から運ばれ、組み立て作業中の実物大模型)